中村小学校 研究通信

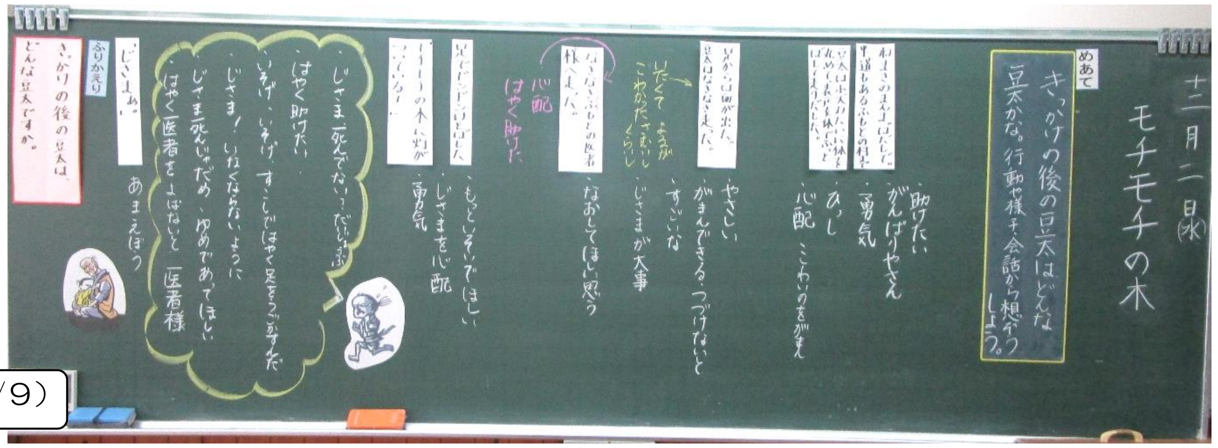
チーム中小

R2.12月　23日(水)

No.１３　　文責　才市

３年２組の研究授業の様子と、事後研の内容についてお知らせします。教材は、昔から読み継がれている物語「モチモチの木」です。これまで「書くこと」の領域で研究授業を行っていただきましたが、今回「読むこと」の領域ということで、事後研でも研修を深めることができました。

単元名　紹介したい！ぼく・私のお気に入りの本　　　全９時間
教材名　「モチモチの木」　　　公開授業：３年２組　　谷本　教諭



最終板書(5/9)

どの言葉から考えた？

児童の手持ちの全文シートと同じものを黒板右側に掲示

授業者よりリフレクション

目標達成に向けて・前時までの学習を価値づけて、次の学習へと繋げていく。叙述の一部分から想像したことを発表していたので、複数の叙述と結び付けて想像を広げさせることが必要だった。

本気になる課題・「紹介カードを書く」というゴール、友達の様々な読みを知って、人物の想像にもいろいろな感じ方があることを意識しながら読む。

見方・考え方・同じ叙述（言葉）でも、それぞれの読みや感じ方があり、自分との違いを捉えさせながら友だちの考えを聞き、いろいろな読みがあっておもしろいという思いを持たせたい。

事後研では、参観の視点（３点）に沿って協議を行いました。（抜粋）

１．本時の目標は達成できたか。

〇様子や行動の叙述から、豆太の人物を想像して書き込みができており、目標を達成できていた。
〇自分が見つけた叙述以外の友達が見つけたものも加筆し、達成できていた。
▼何ができたら想像できていると言えるのか。豆太の性格や気持ちなど、捉え方がはっきりしていなかった。目的を持ってペア対話をしていく必要があり、広がりが弱かった。

２．児童が本気になる課題の工夫があったか。

〇「特に」という言葉を入れて、言葉の細部に着目させ、対話の助けとしていた。
〇問い返しをしたり、交流途中で交流の仕方を確認したりしていたことが良かった。
▼『「勇気がある」という想像は、どんな文・言葉から？』と考えさせ、「ＡからもＢからも。」と複数の叙述と結び付けて、想像させたい。

３.「言葉による見方・考え方」を働かせるための手立てがあったか。

〇全文シートは、全体の流れを捉えることができてよい。
▼全文シートを上下ではなく、横につなげて読み進められるようにしたい。
▼「性格を表す言葉」について、「言葉の宝箱」を使って語彙を広げておきたい。言葉にこだわるために、「どこから？」より「どの言葉から？」と聞いたり、「じさま」と「じさまっ」の違いについて感じ取らせたい。

助言者：宗﨑指導主事より（本単元・本時の学びのポイント）

① 指導事項の重点化

「C 読むこと」の〔エ精査・解釈〕の中で、本単元で重点的に指導していく内容を絞って単元を構想する。①人物の気持ちの変化、②性格、③情景となっているが、教材の特質（この教材なら①変化を捉えやすいなど）を押さえたうえで、場面の変化と関連付けて考えさせることが重要。展開例：「中心人物豆太の性格はどれかな？」⇒「言葉の宝箱」から選ぶ⇒根拠となる叙述を示す　発問例：「臆病なだけかな？」「臆病な豆太がなぜ呼びに行ったのだろう？」など、言葉に返りながら、むきになって話し合いたくなる問いを準備したい。

②言語活動の設定

考えさせたいことを見極めて、言語活動を設定し単元づくりを行う。ブックトーク・座談会などもあるが、今回の紹介カードなら紹介したい人物という内容の設定もできる。理解（読んで分かった事）と表現を連動させ、授業の中で活動しながら紹介カードを仕上げていく単元構成としたい。

③学びが成立する全文シート・対話

子どもたちの全文シートにたくさんの書き込みがあった。自分の考えを持ち、対話を通して新しい気づきがある。考えを持っているからこそ、自分と比べながら友達の考えを聞き、全文シートを用いて伝え合う学びができていた。

めあての設定において「何から考える？」と問われ、「行動や会話」と、性格を想像するうえで文章のどこに着目して考えるのか、読みの視点を持っていた子どもたち。また、「特にどこ？」と、叙述のどの言葉から考えたのか述べさせたり、「どうしてそう思ったの？」と考えた理由を問いながら、中心人物豆太の思いから、どんな豆太だと想像したのか引き出そうとしていた谷本先生。掲示している全文シートの言葉を指しながら、自分が想像したことを発表し、自分の考えと友達の考えを比べながら発表が続き、子どもたちの意見がつながっていきました。また、事後研を受けて、次時は構造的な板書となっており、場面や状況に応じた中心人物の思いや行動の様子が視覚的にも示されていました。

子どもが、言葉にこだわって探したり話したりする発問を用意することや、「想像を広げながら読書を楽しむ」今後の読みにつながる単元づくりについて、学ぶことができました。ありがとうございました。